



時事 コラム

被害予測と震災対応の未来

阪神・淡路大震災から30年。6,434名の尊い命が失われたことを改めて思い返すと、胸が痛みます。この30年間、数々の災害が発生し、多くの犠牲者が生まれました。犠牲者の皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。また、被害に遭われた皆様へお見舞い申し上げます。

愛知県では、南海トラフ地震への備えを進める中で、「被害

予測」を公表しています。これらの予測数字を見て私たちは備えに臨むわけですが、平成16年時点の被害予測と平成26年時点の被害予測を比較すると、次元の異なる予測が示されています。調査研究や最新の知見が加わることで、予測の精度が向上していることは確かですが、死者数など10倍の差があることに驚かされます。

しかし、重要なのは「死者数が何名か」ではなく、予測された死者数をどのように一人でも減らしていくかという取り組みです。震災による直接死の最多は「圧死」ですが、一定数の「地震火災による焼死」も見込まれています。柱一本が邪魔をして助け出すことができないまま火の手にのみ込まれる、そんな悲しい死を一件でも減らすためには、

初動対応をいかに迅速かつ的確に行うかが鍵となります。

被害予測の数値を見て、いかに死者数をゼロに近づけるか、そのための取組を一つ一つ具体化していくことが震災対応の第一歩ではないでしょうか。多くの教訓に対して、私たち一人ひとりが今できることを考え、行動することが未来の災害への備えであると考えます。

フィールドワーク レポート



特定小型電動機付自転車(電動キックボード) 試乗



動物福祉協議連での保護シェルター視察
視察先：(一社)SORA 小さな命を救う会さん



菊住学区 防災訓練参加



警察委員会にて海上保安庁第七管区視察

防災関連トピックスピックアップ!

1 南海トラフ地震等の大規模地震災害への備えを強化 (予算額3億円)

南海トラフ地震等対策事業費補助金の補助事業を新設・拡充。「場所(避難所)の支援」から「人(避難者等)の支援」への転換やスフィア基準への対応にむけた事業など、市町村の取組を支援。簡易トイレの整備や衛星インターネット機器等(スターリンクなど)の購入費補助などを行う。



【問合せ先】

防災安全局防災部災害対策課 電話 052-954-6149(ダイヤルイン)

Shiro's Opinion 本県は都市部、中山間地域、離島、半島、沿岸部、0メートル地帯など想定される被害は様々です。その中でも各市町村が「人の支援」を軸に備えの強化を見直すうえで「トイレ」不足問題や性被害対策の強化については最優先テーマと考えます。

3 耐震診断・耐震改修支援 (予算額 5億 3,753万円)

愛知県独自の施策として「精密診断法による補強設計費の補助制度」を創設。従来の診断法と比較し、精密診断法により自己負担を軽減できる耐震化が可能。住宅・建築物の耐震改修の費用に対する補助制度の拡充や危険なブロック塀等の除却等の費用に対する補助制度を継続。



参考：「あいち耐震改修ポータルサイト」

QRコード参照⇒



【問合せ先】

建築局公共建築部住宅計画課 電話 052-954-6549(ダイヤルイン)

Shiro's Opinion 震災時における圧死が最多であることを踏まえると、精密診断法による自己負担低減は大きな後押しになると期待する一方で、緊急輸送道路沿道の建物耐震化についても行政が積極的な支援を行うべきと考えます。

2 衛星通信ネットワーク構築 (6,400万円)

能登半島地震において、避難所で通信環境に役立つ「スターリンク」。中山間地域や半島、沿岸部など通信復旧に時間を要する地域においても、迅速にインターネット通信を確保できるスターリンクなど32台を県下に購入配備予定。

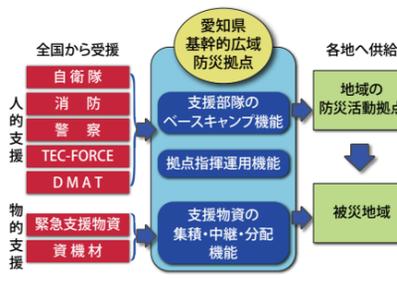


STATION Aiにて、実際に通信速度を体験⇒

Shiro's Opinion 初動対応におけるDX化の課題であった「通信回線確保」。実際にSTATION Aiでの体験時は、十分な通信速度がであることを確認。設置も容易であり大変便利である一方、運営会社が米国企業であることから災害時におけるインフラについては、将来においては国内企業における基盤整備が望ましいと考えます。

4 「愛知県基幹的広域防災拠点」の整備 (予算額 15億 7,216万円)

大規模災害時全国からの応援人員や物資等を円滑に受け入れ、被災現場や地域の防災拠点に迅速かつ的確に供給する「愛知県基幹的広域防災拠点」を県営名古屋空港北西部(豊山町青山地区)へ整備。2028年度末完成予定。



【問合せ先】

防災安全局防災部防災危機管理課 電話 052-954-7478 (ダイヤルイン)

Shiro's Opinion プッシュ型支援が定着しつつある中、災害発生と同時に動き出す関係団体の受援拠点。有効に機能させるためには物理的整備は通過点でしかなく、運用体制のソフト整備こそ災害時支援の肝。一日も早い運用開始となるよう働きかけを強めていきます。

愛知県政へのご要望・ご意見をお待ちしております

◎愛知県議会議員江原シロー事務所

E-mail / info@s-ehara.jp

住所 / 名古屋市南区駈上一丁目11-19

電話 / 052-602-4077 FAX / 052-602-4088

公式HP



https://s-ehara.jp

日頃の活動情報はこちら!



Facebook



Instagram

江原シロー [江原史朗] 略歴

- 1981年 10月6日生
- 2004年 早稲田大学教育学部卒業後、民間企業(建材商社・住宅ディベロッパー)にて、営業職や新規事業の開発等に従事
- 2006年 衆議院議員 牧義夫 秘書
- 2015年 一般社団法人あいち障がい者・障がい児支援センター設立
- 2016年 参議院議員 伊藤孝恵 公設第一秘書
- 2019年 衆議院議員 牧義夫 秘書
- 2021年 衆議院議員 牧義夫 公設第一秘書
- 2023年 愛知県議会議員(南区)初当選

資格

- 訪問介護員2級養成研修課程修了
- 福祉用具専門相談員
- 証券外務員二種
- 第3級アマチュア無線技士
- 大型自動二輪免許

46 報告の義務

議員は社会全体の奉仕者です。だからこそ、議員の給与は税金によって賄われています。議会活動を通じて、地域社会を今日より明日、少しでも良いものにする。そのための役割が「議員」です。

愛知県の施策や課題、議会の状況を報告することは議員の当然の仕事であり、ピラや街頭、県政報告会などを通じ、県民の皆様へ常日頃から報告することは義務だと考えています。「政治不信」が叫ばれて久しい今だからこそ、政治や政治家が何をやっているのか、様々な場所で、様々な手段で見える化を実現します。